



5段階評定のつけ方

中学校では、5段階評定で各教科の成績をつけています。現在は、保護者の皆様が中学生の頃の「相対評価」に変わって、「絶対評価」という方法が採用されています。「絶対評価」による5段階評定のつけ方をお知らせしておきたいと思えます。

以前の「相対評価」は、統計学の理論に基づいて、5→7%、4→24%、3→49%、2→17%、1→3%というように、各段階ごとの人数配分の目安が決められていて、例えば、160人の学年なら、「5」は11人、「4」は38人、「3」は85人、「2」は21人、「1」は5人というような各段階ごとの人数配分になります。境界線のあたりで、ほとんど差がない場合は、「4」が40人といった人数になることもあります。ほぼ決められたパーセント通りの人数になります。

これに対して、平成14年度から採用されている「絶対評価」には、各段階ごとの人数配分はありません。ですから、よい成績の人が多ければ5や4の人数が増えます。また、5や4の人数が少なくなるとか、1や2の人数が多くなったり、少なくなったりすることもあります。

「絶対評価」は、各教科の観点について、評価規準に基づいて、A（十分満足できる）、B（おおむね満足できる）、C（努力を要する）で評価し、それを得点化して5段階評定を決めます。

具体的に説明しますと、各観点は、満点の80%以上をA、79～50%をB、49%以下をCという基準でA・B・Cを決めます。次に、観点ごとに、Aを5点、Bを3点、Cを1点としてすべての観定の得点を合計し、観定の数で割り、それを四捨五入した数値が5段階の「評定」となります。例えば、観点が4つの教科で、Aが1つ、Bが1つ、Cが2つ（A・B・C・C）なら、 $(5+3+1+1) \div 4 = 2.5$ で、5段階は「3」となります。教科の特性によっては、いずれかの観定の比率を大きくする「重みづけ」をする教科もあります。

各教科の観点は、定期テストの得点だけでなく、普段の授業での学習活動なども評価の対象にして決定します。つまり、テストで問われる知識や思考力などだけでなく、宿題、ノートやプリント、小テスト、作品や実技テストなども評価の対象となり、観定のA・B・Cが決められ、そこから5段階評定が導き出されているのです。

1学期と2学期の5段階は、1年間の途中経過です。1～3学期を合わせたものが1年間の評定となり、進路の際の調査書や学校に残す指導要録に記載する年間の評定になります。

1学期にお配りした「通知表の見方」に、各教科の観点、評価規準、評価方法を記載していますので、こちらをご覧ください。

生徒会 新執行部 誕生

12月12日に立会演説会と投票を行い、新しい生徒会役員が決まりました。これから1年間、学校生活の様々な場面で活躍してくれることを期待しています。

会長	2年	小西 葵	副会長	2年	國生真奈美
書記	1年	大智 亜紀	風紀委員長	2年	開発 大地
美化委員長	2年	柴田 葵	保健委員長	2年	田中 満留
文化委員長	2年	朝野 康平	体育委員長	2年	長土居一也
図書委員長	2年	田中 杏佳	放送委員長	2年	森本 遊太

授業をしっかりと聞く姿勢が大事

2学期の初めの方の生徒朝礼で、話を聞く姿勢がすごくいい日がありました。ここ何年間かで一番いい…そんな声も聞こえてきました。でも、それが普段の授業ではできない人があるのはなぜでしょうか。

集中力がない、先生によって態度を変える、学習習慣が身につけていない…いろいろな理由があるのかもしれませんが、毎日の授業をいい加減にして学力は伸びません。家庭での学習も大事なのですが、まず毎日の授業でしっかりと話を聞くことが第一でしょう。

きちんとした言葉づかいを…

大庄中の生徒は、挨拶はとてもよくできる人が多いのですが、大人や目上の人に対するきちんとした言葉づかいができない人があるのは、少し気になります。悪気は全くないのでしょし、人なつこいのはとてもいいことですが、最低限のけじめは必要です。敬語は確かに難しいですが、普段から敬語を使うことが習慣になっていないのでしょうか。

今のままだと、入試などの面接で、きちんとした言葉づかいができなくて困る人がたくさんいます。入試などでは、普段通りにやれば大丈夫、というのが理想ですから、中学校にいる間に、最低限のきちんとした言葉づかいを身につけてほしいな、と願っています。

クラブの人達の早朝掃除 ご苦労様

毎朝、大庄中のクラブの人達が、交代で校門周辺から北側の道路の掃除をしてくれています。落ち葉だけでなく、誰が捨てたかわからないゴミなど、本来は自分たちが掃除をする必要のないもので、暑い日も、寒い日も、雨の降る日も、風の強い日も、毎日掃除をしてくれています。おかげで、チャイムの鳴る頃には、学校の中や北側の歩道まで気持ちの良い状態になっています。

毎日、本当にありがとうございます。ご苦労様。

(文責:校長 福井 隆夫)